

2023年度を迎えて

一年前のセンターニュースには、始まったばかりのロシアによるウクライナ侵攻のことを書いた。一年経ってもこの状況は変わらず、北朝鮮からミサイルが飛んでくるのも変わらず、コロナ禍も相俟って社会の閉塞感は極まった感じがする。ここは救世主やスーパースターは望むべくもなく、ただ沈潜して自分の持ち場を守るしかない。

倫理も道徳も確かな足場を失い、メディアの茶番の中で生き延びるしかないように見える。何を大事にして、何を捨ててもいいかわからなくなっている。立場の数だけ正義がある中で右往左往するのは止めよう。確かなのは私には今、ここに身体がまずあって、精神な

る曖昧なものをぶら下げているという「存在倫理」だけである。この唯一無二なところからまず始めよう。

かつて高名な思想家は「無知が栄えたためしはない」と言った。その通り。「知識人」という言葉が意味と力を持った時代はとうに過ぎてしまった現在、それでもなお、「知」の課題は大きい。テキストにはない無駄と遊びに満ち溢れた「知」と戯れながら、それが日々の「当たり前」になるようにできたらいいことはない。



院長 久保田 雅也

2023年度の方針

療育を見つめ直し組織力の強化、経営の安定化を図る

- ① 感染症対策の再構築を行い建築自己資金作りの為に、増収計画を見直す
- ② 個々を尊重した接遇に心掛ける
- ③ 各事業の組織体制の見直しを行う
- ④ 変化する社会・医療・福祉情勢に対応できる自立した人材育成を行うために各部署の教育体制（教育目標・教育過程・役割等）を検討し、教育機会の均等化・効率化・見える化を含め再構築する
- ⑤ 新病棟建築計画の施工準備を進める

2023年度

主な行事予定・就学状況

4月	新職員オリエンテーション デイケアセンター入所式
5月	第62回創立記念式典 デイケアセンター幼児部遠足
6月	第3病棟 大遠足（西棟） 第7病棟 大遠足（東棟） センター全体 防災訓練 島田療育センター集談会
8月	20歳を祝う会
9月	わいわい祭り 第6病棟 大遠足（1班）
10月	第1病棟 大遠足（1班・2班） 第2病棟 大遠足（1班） 第3病棟 大遠足（東棟） 第5病棟 大遠足（1班） 第6病棟 大遠足（2班）

11月	第2病棟 大遠足（2班） 第5病棟 大遠足（2班） 第7病棟 大遠足（西棟） 還暦・古稀のお祝い 合同防災訓練 島田療育センター集談会
-----	--

12月 クリスマス会（入所・通所）

1月 デイケアセンター成人・新年を祝う会

3月 デイケアセンター卒園式

その他イベント予定

各種配信イベント・音楽コンサート、ぱらあーと（多摩市みんなの美術作品展）、各種講演会（セブクロバー）…など

東京都立多摩桜の丘学園在籍数（4月1日現在）

	本校	分教室	総数
小学部	0名	0名	6名
中学部	0名	1名	
高等部	2名	3名	

ホープフル・スプリングコンサート

2023年2月19日(日) 今回のコンサートは、文化芸術活動の拠点であるパルテノン多摩のリニューアルオープンを機に、以前から催されていた訪問コンサートを復活させる試みとなりました。コロナ禍という事情もあり、YouTubeを活用したLIVE配信の映像を利用者様と職員にお届けしました。司会者の長原様は島田療育センターのためのコンサートにしたいとお話されていました。その熱い思いに応えるように声楽の石田滉さん、ヴァイオリンの月嶋アミさん、ピアノの白河俊平さんの心を込めた演奏が美しい音色と共に伝

わってきました。演奏途中の映像トラブルでは利用者の皆様にはご迷惑をおかけしました。ご希望がありましたら改めてコンサートの映像をお届けしますので、是非お声掛けください。

(療育部療育長 清水 信夫)



ファッションショー

2023年3月5日(日)「ファッションショー」の映像を利用者の皆様にお披露目しました。「ファッションショー」とは、第47回日本重症心身障害学会学術集会の催しの中で、島田療育センターで暮らしている利用者様の日々の装いの工夫、2022年4月に催された「からふるコンサート」への招待から当日本番までの過程や利用者様のワクワク感をコンパクトにまとめた映像です。利用者様を真ん中に包み込むように、ご家族、職員、理容師・美容師の皆様、山野美容芸術短期大学の先生や学生達の温かいサポートの数々が随所に織り込まれており、何度見ても発見のある楽しさ溢れる作品でした。利用者様の皆様の楽しみやその方らしさを

支援する取り組みを日々の生活の中で実践するために、現場にあわせた創意工夫と協力関係を垣間見ることができ、嬉しさを感じました。

(療育部療育長 清水 信夫)



春のハートフルコンサート

2023年3月18日(土) 厚生棟研修室を演奏会場に各病棟へ配信イベントを催しました。学生の演奏家6名をお迎えし、サウンド・オブ・ミュージックのメドレーとディズニーの名曲を演奏していただきました。ヴァイオリン・ビオラ・チェロ・ピアノ・ボーカルという豪華な組み合わせでした。各々が活動の場を持ちながら研鑽を続けている方々です。楽器を手にした瞬間に場の雰囲気が変わる様子が伝わってきました。彼らがのびのびと楽しく奏でる音色が利用者様にも聴こえてきたことでしょう。演奏された方が「直接利用者の皆様にも聴いてほしい!」とおっしゃっていました。同じ願いを

持っていてくださっているのだなと嬉しく思いました。

(療育部療育長 清水 信夫)



第19回

公開シンポジウムを開催しました

第20回島田療育センター公開シンポジウムが2月11日（土・祝）午後、オンライン形式で開催されました。テーマは「コロナ禍：誰もが当事者として考えたこと」としました。3年に及ぶコロナ禍で、多くの制限や変更を余儀なくされたことをこの渦中で一度整理し、失ったものばかりではなく、得たものもあったのではないかと、何か未来に対する光明は見出せないかということでこのシンポジウムを企画しました。

私が報告したのは、先天性無痛無汗症という稀少難病の患者家族に対するアンケート調査です(Kubota et al. Pediatrics International 2022;e15415.)。現在より混乱していた第3波の入り口で家族の奮闘りが伝わってきました。社会の閉塞感、受診控え、外出自粛、就労形態の変化、患者の睡眠や行動変容などの家族を孤立へ向かわせる状況が陰微に進む中で、それでもこの状況をポジティブにとらえていました。このレジリエンス（対応力と回復力）は難病であるが故に培われたものをさらに強化したもので未来につながるはずです。

「未来につなげる コロナ禍で得たもの、失ったもの」
「命は救えたが、人生は救えているか」
「ドクターストップではなく、『GO』」

横須賀にある重症心身障害者を対象にした入所施設ライフゆうの施設長水口浩一先生は、入所者をメンバーさんと呼び、病院らしくない家のような入所施設を目指しています。この3年間のコロナ対策（2度のクラスター）を総括して、初期の重症化率の高い生活制限やむなしの状況からオミクロン後のスタンスとして

- 標準的な感染予防策は実施し、過剰な生活制限はしない。
- スタッフのスクリーニング検査や、体調不良時の検査も必須としない。
- メンバーさんにも、「何かあればすぐ検査」としない。
- ワクチンについても接種は任意で「打ちたくない」といえる環境をつくる。

というまだ大きな声では言えない方針を悩みながら打ち出していました。コワイのはコロナではなく、コロナ対



策と恐怖で固まってしまい身動きが取れなくなるということだというポリシーです。そしてクラスターは悪ではなく、コロナは経験すべきもの、慣れていくものに考え方を変わっていくべきではないかということまで到達します。

職員やメンバーさんの生活で、当初、失ったものはありませんが、得られたものとしては災害から学んだ実践経験（BCP）、治療経験、ICT導入活用、施設の組織力の強化、柔軟性の向上があったといいます。これらが全国的なデータの共有の必要性の提言や地域連携型外来の開設にもつながっていきます。コロナを通して未来への推進力を掴み、社会に対する処方箋を提示している姿は見事なものだと思いました。

「世界の中の日本：コロナ禍で得たもの、失ったもの」
「正解は更新される！」

帝京大学大学院公衆衛生学研究科の高橋謙造先生は新型コロナウイルスは何が新型なのかから説明し（潜伏期間の長さ、無症状感染者の多さ、空気感染）、日本の初期対策の問題を挙げ（PCR抑制、学校閉鎖、空気感染の否定）、ワクチンの効果をデータを提示して力説しました。乳幼児は無症状感染が多いこと、オミクロン以前は軽症であったこと、2才未満では基礎疾患のある患者では重症化リスクが増大する可能性を述べました。乳幼児へのワクチンに関しては、データが少ない中で接種を待つ（ひかえる）ことも含めて感染予防は期待できないが、重症化は予防できる可能性から接種するという考え方を提示、海外との感染状況の違いから定期化も年1回でよいかどうかは不確定という考えを提示しました。自ら外来でワクチン接種を行ないながら、現場感覚も大事にし、多くの報告を丁寧に読み解き、現在わかっている最新の内容を講演では聴くことができました。

（院長 久保田 雅也）

2022年度 第2回

医療安全講習会を開催しました

2023年1月17日から2月末日までの期間で2022年度第2回医療安全講習会のWeb研修が開催されました。第1病棟の新里看護師に『急変時の対応（成人編）～発見から胸骨圧迫開始まで～』という内容でお話し

いただきました。日々の臨床、生活の場では重要な内容ですので、センター内の研修視聴サイト「しまナビ」でいつでも確認できるようになっています。

“重要なことは”

・利用者さんの普段の生活、日常の様子をしっかり見て、理解していないければ、「いつと違う」ことには気づけません。「何か変？」何となく違う気がする」と思ったら、自分だけで思っているのではなく、周囲のスタッフに投げかけることが大事です。利用者さんが発症しているサインを多くの目で見て、注意していくことで、異常の早期発見に繋がります。

（医療安全委員 中野 智子）

2022年度 第2回

院内感染対策委員会全体研修を開催しました

2023年1月30日から2月末日の期間で2022年度第2回 院内感染対策委員会全体研修を行いました。今回は厚労省が配信している大阪大学 忽那賢志先生の

『COVID-19の臨床像、画像、経過など』でした。参考動画として紹介されていた済生会横浜市東部病院 大石貴之先生の「新型コロナウイルスの特性に基づいた効果的な院内感染対策」と一緒に今でも見られるようになっています。(院内感染対策委員会 中野 智子)

第17回

心理講演会を開催しました

今年度の心理講演会は、1月21日(土)に『ゲームやインターネットとの付き合い方～一人ひとりに合わせてポジティブに～』というテーマで、オンライン開催で行いました。今の親世代が子どもの頃と比べ、インターネットやゲームは子どもたちにとって身近な存在となりました。一方で、ICT機器の使用に関する様々な困り事もよく耳にするようになりました。私たち臨床心理科が外来の保護者の方と接する中でも、“子どもがゲームやインターネットをやり過ぎてしまう”“使用に関するルールをうまく設定できない”というようなご相談を受けることが少なくありません。そこで今回は、子どもとゲーム・インターネットの付き合い方についての著書も執筆されている、愛知県医療療育総合センター中央病院子どものこころ科の吉川徹先生(児童精神科医)を講師としてお迎えし、子育てや教育・保育の現場で子どもと関わる大人たちが理解すべきこと、できることをポジティブに考える機会としました。

当日は保護者をはじめとして、医療関係者、教育関係者など171名がご参加くださいました。講義では、子どもたちがよく使用しているICTについての基礎知

識やICTリテラシーについて、大人たちにできることなど多岐にわたり丁寧にお話しいただきました。特に、ICT機器の使用に関する約束を行う際のコツや、機器の使用を“お終い”にするコツなどについて、具体的にご講義いただき、保護者の方にとっても、また臨床現場で子どもたちと関わる支援者にとっても、役立てることのできる実践的な知識をたくさん教えていただきました。

事後に参加者に実施したアンケートでは、「ゲームに対して抵抗を感じていたが、この講演を聞いて考え方が変わった」「知っていくことが今後大事になると改めて思った」といったご感想をいただきました。また、「吉川先生の講義が聞きたくて参加した」といった声も多くいただきました。先生のお言葉にもあったように、「時代は元には戻らない」ことをしっかり受け止め、子どもたちが困ったときに相談したり、一緒に考えていける身近な大人となれるよう、ICT機器の使用について、子どもたちと一緒に自分自身も理解を深めていこうと思います。

講師の先生、参加者の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

(臨床心理科 和田 聡美)

有本副院長 ありがとうございます

当センターを26年間支えてくださった有本副院長が定年を迎えられ、経営責任者会議で花束を贈りました。4月より、非常勤医師として外来担当となります。



おしらせコーナー

第62回創立記念式

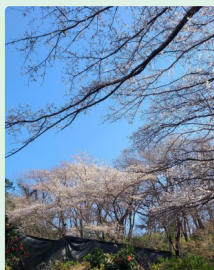
2023年5月1日(月)に創立記念式が行われます。当センターは今年で創立62年を迎えます。

ヤギがやってきました

病棟・外来問わず大人気のヤギさんたちが今年もやってきました。夏に向けて伸びてくる草をもりもり食べてもらう予定です。



2023年、東京の桜は3月14日に開花が観測されました。随分早いと思ったけれど2021年のひとこと欄を見たら同じ14日開花でした。ただ2021年は都心での事で島田付近とは時差がありました。今年、今年は裏山のソメイヨシノもすでに2~5分咲きで、都心と差がない印象です。今年入学式ではなく卒業式が満開になりそうです。



発行者 社会福祉法人 日本心身障害児協会 島田療育センター
〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

TEL 042 (374) 2071 (代表)

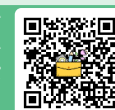
URL <https://www.shimada-ryoiku.or.jp/tama/>

スマホの方は
こちらから

島田療育センター



ブログほしけ



フェイスブック

